



登場人物

寺多さん（61歳） 杉木さん（32歳）

寺多さんの呼びかけで組織化することが決まった。名前は残念ながらバタフライクラブにならなかったが、寺多さんが落ち込むことはなかった。会長には南川さんが、寺多さんは事務局長となり、自宅が会の事務所になった。

皆出：寺多さん、おめでとうございます。

寺多：ありがとうございます。ここまでこれたのも先生のおかげです。

皆：最後のキーワードは、プロモーションとかPRのPです。紋白町を宣伝し、町の魅力を伝えるとともに、頑張ってくれている人たちを応援することです。

寺：それは町内に住む人たちのためにまちづくりの様子を知らせる新聞を発行したり、ホームページを開設したり、紋白町ファンクラブを作るようなことでしょうか！

皆：そうです。ものわかりがはやい。地域にもよそにも味方を増やし、みんなで元気な町、住みたい町にしていこうという意識付けをすることです。その目的さえしっかりしていればイベントも大事なことですよ！

もう、慌てて飛び出す寺多さんではなかった。この半年ほどの間にすっかり自信をつけているようだった。

それから一ヶ月後、皆出さんは第2回お地蔵様めぐりを見に初めて紋白町を訪れた。皆出さんが驚いたのは集まっているお客さんの数ではなかった。運営しているスタッフの笑顔と年代の広さだった。

近くの農園から取り寄せられた野菜コーナーの横に、募金箱があった。ブロック塀を板塀に変えようキャンペーンと書いてあったが、聞いてみるとお地蔵様の通りにふさわしいように、新潟県村上市の取り組みをヒントにブロック塀に板を貼り付けていこうとするものだった。イベントからまちづくりの芽が確実に育っているようだった。

杉：お義父さん、僕のフットサルのメンバーが真剣に紋白町で家を探しているようです。こういう元気な町に住みたいといっていましたよ。
それから、僕の友人がお父さんから一度ゆっくり話を聞きたいと言っていたので連れてきました。

杉木の友人：ブロック塀を板塀に変えようという運動がはじまりましたし、町の景観もみんなで真剣に考えようと話し合ってきたんです。
そこで、まちづくりの基本となる都市計画とは何か？
寺多さん！わかりやすく教えてもらえませんか？



しばらく考えていた寺多はゆっくりと話しはじめた。

寺：まず、市街化区域という言葉やけども・・・

それは、はじめて明日野市役所を訪れて教えられた都市計画法の言葉だった。寺多は市街化区域のこと、北側斜線のことなど自分が体験した都市計画の話を夜が更けるまで話し続けるのだった。

Promotion



とうとう、番外編でも語られることのなかった
黒ずくめの男。

エピソードⅢでその出生の謎が解き明かされる！！

彼がマントを羽織った理由は如何に！！

乞うご期待！